

# 建築仕上げ材料の落書き・貼り紙除去性に関する研究

## －落書き・貼り紙実態調査について－

日大生産工(院) ○小田 浩之 日大生産工 松井 勇  
日大生産工 湯浅 昇

### 1. 研究の背景及び目的

公園内の公衆便所等の諸施設、道路、鉄道橋などの壁面が落書きや貼り紙によって、その景観が損なわれている。この落書きや貼り紙を落とすために多大の労力や費用が費やされている。

本研究は、建築仕上げ材料の落書き・貼り紙の除去方法の検討を目的としている。本報告は、落書き・貼り紙除去方法の策定にあたり、必要な資料を得るため、落書き・貼り紙の実態を調査したものである。

### 2. 落書き・貼り紙の実態調査方法

#### 2.1 調査地域

実態調査は、JR津田沼駅を中心とした2km四方の区域（千葉県習志野市および船橋市）を対象とし、その区域を図1のように12ブロックに区画分けして調査を行った。

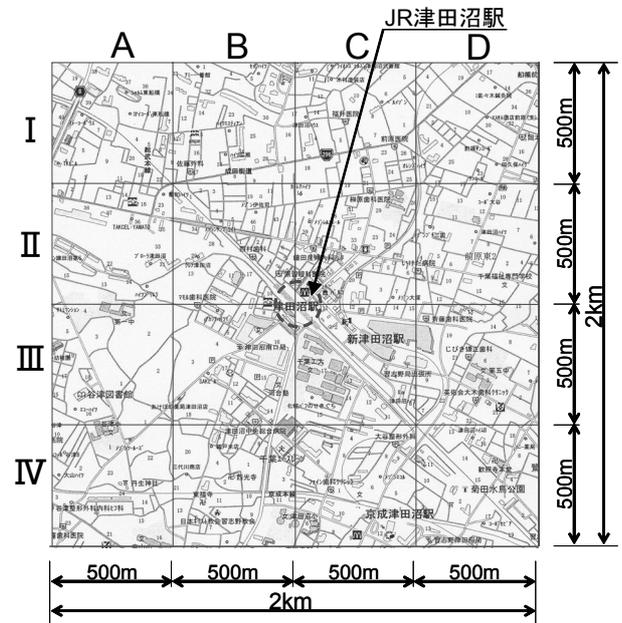


図1 実態調査区域

#### 2.2 調査日時

平成19年6月15日から7月5日の20日間にわたって調査を行なった。

#### 2.3 調査項目

調査項目は以下に示す6項目とした。

- (a) 落書き・貼り紙がされている場所
- (b) 落書き・貼り紙がされている対象物
- (c) 落書き・貼り紙がされている仕上材料
- (d) 落書きに用いた筆記具及び色
- (e) 貼り紙に用いた紙の種類及び接着剤
- (f) 落書き・貼り紙の形態及びその他

落書きの形態は、写真1に示すようにタギング※1、絵、文字、塗りつぶし、その他の5種類に分類した。また、今回は調査範囲が広いので、同一箇所に複数の落書き・貼り紙がある場合は、それらを1ヶ所につき、1として数えた。（例：1本の電柱に3つの貼り紙がされていたら1として数える。）

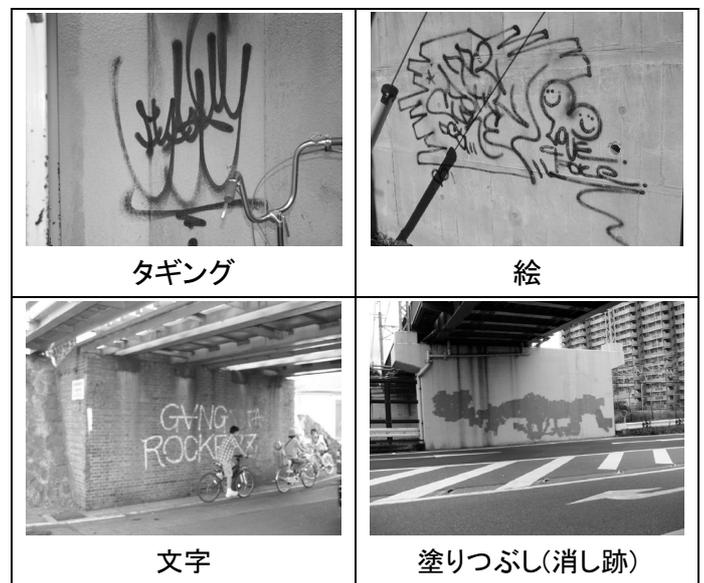


写真1 落書きの形態

### 3.結果及び考察

#### 3.1落書き実態調査

##### 1)落書きの地区件数について

今回、調査した落書きの件数は134件であった。図2に、各ブロックの落書き総数を示した。落書きは、JR津田沼駅および新津田沼駅を含むブロックBII (31件)、BIII (10件)、CII (27件)、CIII (15件)が非常に多く、京成津田沼駅を含むブロックDIV (11件)も多くなっている。これは、駅を中心して人が集中する場所に従い落書きが増加していると考えられる。また、ガード(鉄道高架)下を含むブロックA I (9件)、DIII (6件)のような、大きな面積の壁面がある場所に多くなっている傾向が見られた。

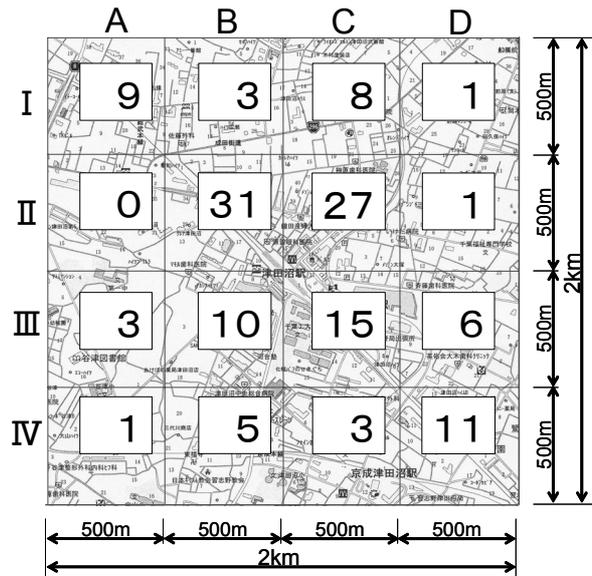


図2 各ブロックと落書き件数

##### 2)落書きの対象物について

表1は、各対象物の落書きの形態を示した。塀の落書きが37件、ガード(鉄道高架)下の壁面20件ついで、外壁に12件と多く書かれている。これは、塀や壁面のような大きな面積があると、落書きが行なわれやすいと考えられる。

表1 各対象物の落書きの形態

対象物	タギング	絵	文字	塗りつぶし	その他	合計
塀	19	6	5	6	1	37
ガード(鉄道高架)下の壁面	12	0	0	8	0	20
外壁	8	2	1	1	0	12
ガードレール	8	0	0	0	0	8
看板	6	0	1	0	1	8
変圧器など	7	0	0	0	0	7
歩道橋	5	0	0	2	0	7
電柱	3	0	1	1	0	5
物置	4	0	1	0	0	5
ゴミ捨て場	4	0	0	0	0	4
シャッタードア	4	0	0	0	0	4
休憩施設	0	0	3	0	0	3
ポール	1	0	1	0	0	2
花壇	1	0	1	0	0	2
その他	9	1	0	0	0	10
合計	91	9	14	18	2	134

##### 3)落書きに用いられた筆記具について

落書きに用いた筆記用具を図3に示す。落書きには、スプレー塗料72%、マーキングペン16%の2種類が非常に多くなっている。

落書きはその場の環境によって、いたずら心で書かれたものと、落書きをするという意識で書かれたものがあるように思える。前者は、たまたま持ち合わせた筆記用具、たとえばマーキングペンなどで書く場合が多く、後者は落書きをするために用意した筆記用具、例えば、スプレー塗料によるものと区分されるようである。当然、前者はひとつの落書きの面積は小さいが、後者は落書きの面積が大きくなる。また、管理者がいないような場所での落書きは文字が多い。タギングのように多くの人の目に留まるような場所での落書きはデザイン化されたものが多い。タギングにおいては落書きをするという目的で用意した筆記用具を用いて書かれた落書きが多い。

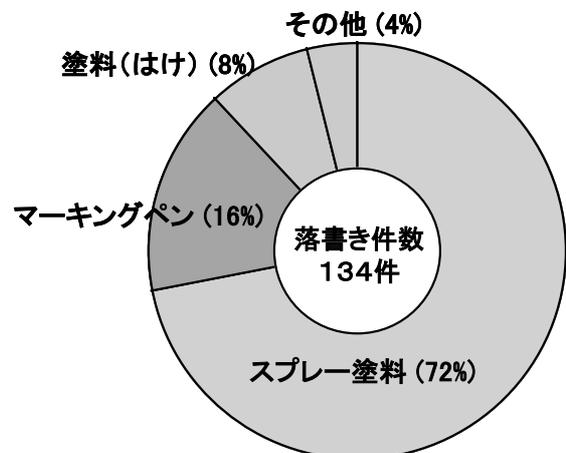


図3 落書きに用いた筆記用具

##### 4)落書きに用いた筆記用具の色

図4は、落書きに用いた色の種類を示したものである。落書きには黒が35%、白が23%、青が17%と多くなっている。また、落書きのほとんどが単色で描かれていた。今回は、仕上げ材料の色までは調査しなかったが、目立たせるという視点からすると、仕上げ材料の色も

関係すると考えられる。

### 5) 落書きに用いられた筆記具ごとの落書きの形状

表2に、筆記用具の落書きの形態を示した。落書き形状の件数は、タギングが91件、塗りつぶしが18件となっている。この塗りつぶしは落書きを除去する目的で、落書きの上から塗りつぶしたものであると考えられるものも含められている。スプレー塗料は、タギング、文字に多く使われ、マーキングペンは、タギング、塗料（はけ）は塗りつぶしに用いられている。

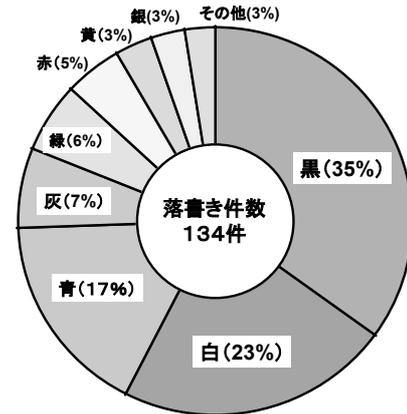


図4 落書きに用いた色の種類

### 6) 落書きされた仕上げ材料

落書きされた仕上げ材料を図5に示す。落書きされた仕上げ材料はコンクリート36%、金属材料30%と非常に多くなっている。これらの仕上げ材料が使われている塀や壁面、看板などは平らな部分の面積が大きいので、落書きしやすいのだと考えられる。

表2 落書きに用いられた筆記具ごとの落書きの形状

落書きの区分	落書きに用いられた筆記用具						合計
	スプレー塗料	マーキングペン	塗料(はけ)	修正液	チョーク	ひっかき棒	
タギング	75	16	0	0	0	0	91
線	4	1	0	0	2	2	9
文字	10	3	0	1	0	0	14
塗りつぶし	7	0	11	0	0	0	18
その他	1	1	0	0	0	0	2
合計	97	21	11	1	2	2	134

### 7) 落書きを除去した跡

ガード(鉄道高架)下の壁面には、落書き消し跡と思われる、落書きの上からの再塗装が多く見られた。しかし再塗装の色が下地と異なり、美観性が悪く、落書きがあったことが容易に確認できる。

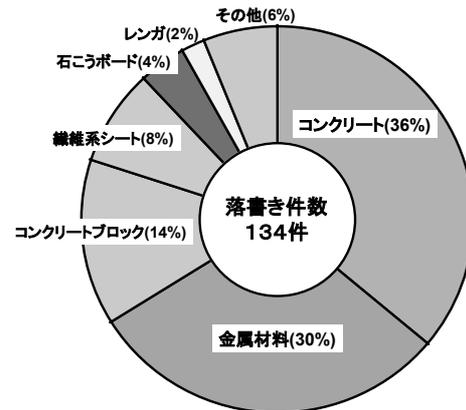


図5 落書きされた仕上げ材料

## 3. 2貼り紙調査結果

### 1) 貼り紙の地区件数について

今回調査した貼り紙の総件数は903件であった。図6は、各ブロックの貼り紙の総数を示したものである。貼り紙も落書き同様にJR津田沼駅周辺のブロックBⅡ(99件)、BⅢ(96件)、CⅡ(138件)が多くなっている。また、貼り紙は地区によって貼り紙の内容に違いが見られた、例えば、駅周辺では、金融関係の貼り紙が多く、住宅地では、住宅販売関係の貼り紙が多く見られた。このように、貼り紙は同じ形態の物が多いので、一度に同地区に、大量に貼られていることが考えられる。

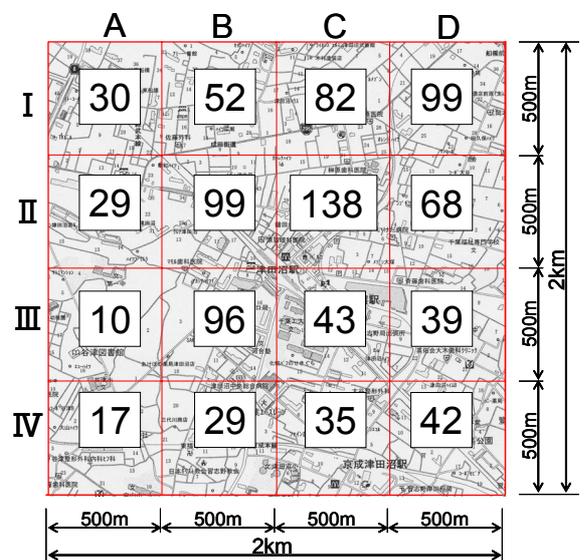


図6 各ブロックと貼り紙の件数

### 2) 貼り紙の対象物について

図7は、貼り紙された対象物を示したものである。貼り紙がされている場所の約70%は、コンクリートの電柱や金属材料の道路標識・信号機に貼られていることが多く、その他には、シャッター、自動販売機、歩道橋の柱等、多種多様な場所に貼られている。



写真2 貼り紙の形態

### 3) 貼り紙に使用された接着剤

貼り紙使用された接着剤の種類を図8に示す。貼り紙の接着剤は、シール<sup>※2</sup>が40%次いで、両面テープが27%、布・紙ガムテープが19%の順になっている。これは、シール状の貼り紙や粘着テープを用いて行なうと、短時間で作業が行なえるので、多く使用されていると考えられる。

### 4.まとめ

落書き・貼り紙の実態調査結果のまとめを以下に示す。

- (1) 実態調査区域内の落書きは駅周辺66%、ガード(鉄道高架)下11%が多く、全体の約80%を占めている。
- (2) 落書きをされている対象物は塀28%、ガード(鉄道高架)下の壁面15%が多い。
- (3) 落書きに用いた筆記用具はスプレー72%、マーキングペン16%が多く、全体の約90%を占めている。
- (4) ひとつの落書きに使用されている筆記用具の色は単色が多い。また色の種類としては黒35%、白23%、青17%が多い。
- (5) 落書きの形態は、タギング68%が圧倒的に多い。
- (6) 貼り紙をされる対象物は電柱が多く、接着剤は粘着テープが多い。

### 【謝辞】

本調査を行なうに当たり、習志野市役所および船橋市役所のご協力を得ました。ご謝意を表します。

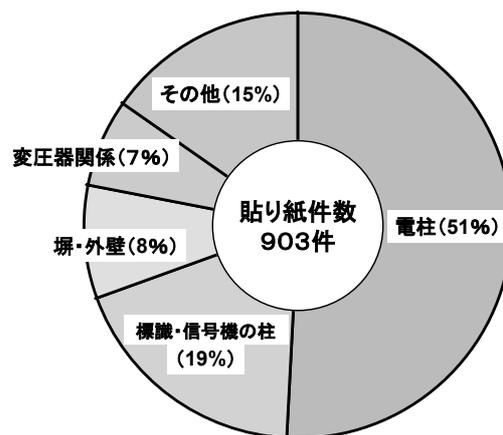


図7 貼り紙の対象物

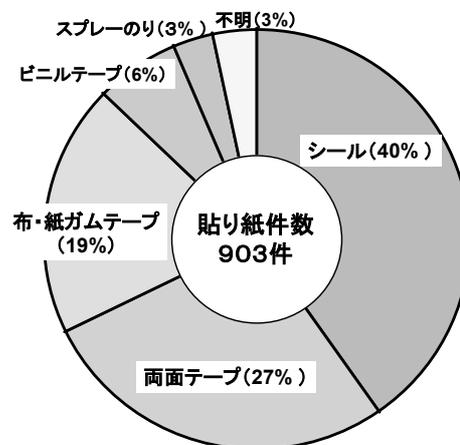


図8 貼り紙に使用された接着剤

注) <sup>※1</sup>: 街に散見される落書きの一種で、特に個人や団体のマーク、メッセージ等をユーモラスにデザイン化して描かれたもの。

<sup>※2</sup>: 用紙の裏に糊や粘着材の付いた紙やフィルムなどの形状をしているもの。

### 【参考文献】

- 1) 松井勇、湯浅昇、逸見義男、落書き及び貼り紙の除去性の評価方法について、日本大学生産工学部第29回学術講演会建築学会講演概要、1996. 2. pp.19-22
- 2) 松井勇、湯浅昇、米久田啓貴、建築仕上げ材料の対落書き性の評価項目および評価方法に関する研究その1 落書き実態調査、日本仕上げ学会1998年大会学術講演会研究発表論文集1998. 10. pp37-40.
- 3) 松井勇、湯浅昇、米久田啓貴、建築仕上げ材料の対落書き性の評価項目および評価方法に関する研究その3船橋市内の公園・道路・鉄道橋の落書きの実態調査、1998年に日本建築学会関東支部研究報告集pp137-140
- 4) 松井勇、湯浅昇、米久田啓貴、建築仕上げ材料の対落書き性の評価項目および評価方法に関する研究その2 落書き対策の現状、日本大学生産工学部第31回学術講演会建築学会講演概要、1998. 12. pp61-64